

4 温室効果ガスの排出の状況

基準年度（令和6年度）の温室効果ガス排出の状況

①エネルギー起源二酸化炭素の排出量		827	t-CO <sub>2</sub>
①を 除く （二 室 酸 効 果 ガ ス 換 算 ）	②非エネルギー起源二酸化炭素		t-CO <sub>2</sub>
	③メタン		t-CO <sub>2</sub>
	④一酸化二窒素		t-CO <sub>2</sub>
	⑤ハイドロフルオロカーボン類		t-CO <sub>2</sub>
	⑥パーフルオロカーボン類		t-CO <sub>2</sub>
	⑦六ふつ化硫黄		t-CO <sub>2</sub>
	⑧三ふつ化窒素		t-CO <sub>2</sub>
	温室効果ガス総排出量（①～⑧合計）		827

5 温室効果ガス排出量の抑制に係る目標

(1) 温室効果ガス排出量の抑制目標

温室効果ガスの抑制の目標設定方法	総排出量及び原単位排出量
------------------	--------------

項 目	基準年度 令和6年度 排出量（実績）		目標年度 目標排出量		令和9年度 目標削減率	
	温室効果ガス 総排出量	827	t-CO <sub>2</sub>	822	t-CO <sub>2</sub>	0.6

項 目	基準年度 令和6年度 排出量（実績）		目標年度 目標排出量		令和9年度 目標削減率	
	原単位当たりの 排出量		t-CO <sub>2</sub>		t-CO <sub>2</sub>	

(2) 目標設定の考え方

温室効果ガスを1年目に、0.2%、2年目に0.2%、3年目に0.2%削減し3年間で0.6%削減する。
--

- 備考1 温室効果ガスの排出の状況のうち、エネルギー起源二酸化炭素を除く温室効果ガスの排出量については、温室効果ガスの種類ごとに3,000トン以上の場合に限り計上してください。
- 備考2 温室効果ガス総排出量とは、エネルギー起源二酸化炭素の排出量と、種類ごとに3,000トン以上の温室効果ガスの排出量の合算をいいます。
- 備考3 原単位当たりの排出量とは、事業活動の特性を的確に示すものとして事業者自らが選択する工場等の床面積、製品の出荷量その他の指標になる単位数当たりの温室効果ガス排出量をいいます。

6 温室効果ガスの排出の抑制等に係る措置

(1) 自らの事業活動に伴い排出される温室効果ガスの抑制に係る措置

取組の区分	具体的な取組の内容	取組の目標
省エネルギー・省資源の行動実践 (冷暖房)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・冷暖房時間の見直し短縮する。</li> <li>・可能な限り外気を取り入れ冷暖房期間を短縮する。</li> <li>・事務所等の冷暖房を適切な温度に設定する。</li> </ul>	
省エネルギー・省資源の行動実践 (照明)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・使用していない部屋, 休憩所, 倉庫等は消灯を徹底する</li> <li>・従業員トイレは使用後消灯する。</li> <li>・昼休みや残業時、不必要な照明の消灯を徹底する。</li> </ul>	
省エネルギー・省資源の行動実践 (OA機器)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昼休みにパソコンの電源を切る。</li> <li>・パソコン・コピー機等の購入には省エネ型を選ぶ。</li> </ul>	
廃棄物の排出抑制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コピー用紙の利用を効率化(両面コピー、裏紙利用)する。</li> <li>・紙ゴミは紙質ごとにリサイクルする・紙・ビン・カン分別リサイクルする。</li> </ul>	

(2) 非化石エネルギーへの転換に関する措置

ア 非化石電気に関する目標

指標	目標 (2030年度)
使用電気全体に占める 非化石電気の比率	%

イ 計画期間における非化石エネルギーの利用

--

(3) 環境価値 (クレジット等) の活用

--

(4) その他の地球温暖化対策に係る措置

--

(5) 「環境保全の日」等に特に推進すべき取組

--